

令和7年4月22日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和7年3月分

～令和7年3月 データから見た業界の動き～

令和7年4月22日 発表

製造業では賃上げを上回る物価高騰に苦慮
アメリカ相互関税に翻弄される事業者が多数



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年4月22日 発表

製造業では賃上げを上回る物価高騰に苦慮 アメリカ相互関税に翻弄される事業者が多数

■ 概 況

3月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲10ポイント（前年同月比 4ポイント↑）

収益状況 ▲26ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

景況感 ▲28ポイント（前年同月比 4ポイント↓）

となり、売上高が前年同月を上回ったが、景況感は下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲10ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

収益状況 ▲40ポイント（前年同月比 5ポイント↓）

景況感 ▲35ポイント（前年同月比 5ポイント↑）となった。

「3月に一部商品の販売価格を10～15%値上げした（水産物加工業）」「2年前に商品の値上げを行ったが原材料・包材・運賃・光熱費等の高騰で再度値上げしないと利益確保ができない（パン・菓子製造業）」など、「一部の価格転嫁は実現しているが、それ以上に製造コストが上昇し収益状況が改善しない（骨材・石工品等製造業）」を例に価格転嫁に進展が窺えるが、それを上回るコストの上昇に苦慮する事業者が多く収益状況D.I値が低下した。

また売上高・景況感D.I値が上昇し、「先の仕事が確保できており数か月先の見積もり依頼もある（電気機械器具製造業）」「売上は増加し、続いていた受注減少は下げ止まりの兆しが窺えるが、小ロット注文やカスタマイズ品種の増加で煩雑さが増している（家具製造業）」など、売上や仕事量は回復傾向にあるが、多様化・複雑化する顧客ニーズへの対応など新たな課題も出てきている。

一方、非製造業では…

売上高 ▲10ポイント（前年同月比 3ポイント↓）

収益状況 ▲17ポイント（前年同月比 3ポイント↑）

景況感 ▲23ポイント（前年同月比 10ポイント↓）となった。

「気候が暖かくなりビジネス客に加えて観光客が増加傾向。春休み中にスポーツイベントがあり団体客の宿泊も増加した（宿泊業）」「3月は卒業式シーズンであるため組合員の各店舗で予約数は増加傾向（美容業）」と、物価高の中でも観光需要が増加している状況が窺え、季節イベントによる好影響を受けた事業者の報告もあった。

一方で「金・地金価格が過去最高値を超え販売価格が上昇し受注量は減少している。今後も消費の伸びは鈍化すると推測される（ジュエリー製品卸売業）」「物価高による消費者の買い控えで当面の間は荷動きが鈍い状況が続く見込み（道路貨物運送業）」など物価高によりモノ消費は低迷しており、非製造業全体で売上高・景況感D.I値は低下した。

建設業からは「工期の延長や材料費・人件費高騰を理由とした設計変更により元請業者から減額を要求されるケースが発生し、賃金アップを要求している国との矛盾がある（型枠大工工事業）」「需要はあっても工期が延期される傾向にある（鉄骨・鉄筋工事業）」と、下請け業者が置かれている厳しい状況が報告された。

中央会では臨時調査としてアメリカ相互関税の本県経済活動への影響予測について聞いたところ、34社より回答を得た。影響が「ある」と回答した情報連絡員は41%、影響が「ない」は59%となった。「ある」と回答したうち、組合員（会員）がアメリカへの輸出を行っている事業者は21%であった。

今回の相互関税により予想される米国内のインフレに伴う国内輸入品の価格高騰により「工具・オイルなど製造に係わるすべてのモノの価格が20%程度上昇する予測（電気機械器具製造業）」「PC関連部品の価格が10%程度上昇する予測（情報サービス業）」などの声が聞かれ、またその上昇分を製品価格へ転嫁できるのか自社で負担するか、負担する場合はコスト上昇分を吸収できるのか、翻弄され対応を模索している状況が窺えた。

また、輸入品の高騰や対米輸出の減少により日本全体への悪影響も予想され、「景気後退による国内住宅産業への間接的な影響を懸念している（家具製造業）」を例に先行きを不安視する声も多く聞かれた。

中央会では専門家派遣等を活用して様々な制度改正に対する支援を強化していく。お気軽にご相談ください。

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	昨年、単発の大口注文が入り売上が増加したため、今期の売上は前年同月と比べ72.6%となった。原材料価格の高止まりが続く中、3月に一部商品の販売価格を10～15%値上げした。
食料品 (洋菓子製造業)	季節イベントにより売上は前年同月と比べ103%となった。原材料価格の高止まりが続く中、4月から商品の販売価格を約10%値上げする。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べ売上は7%増加したが、収益状況▲15%となった。2年前に商品単価を値上げしたが、原材料・包材・電気・ガス等の価格が高騰しており、再度値上げを行わないと利益確保ができない。
食料品 (酒類製造業)	金額ベースの売上に改善の兆しがみられる。
繊維・同製品 (織物)	売上が低迷しているインテリア・裏地・ネクタイ等の業種では、売上拡大のため国内外の販路拡大に取り組む必要がある。 現時点ではアメリカの相互関税による影響は少ないと思われるが、各国の報復合戦により、国際的なモノの流れが滞る恐れもあることから今後の動向を注視している。
繊維・同製品 (織物)	産地の維持に必要な繊維産業関連事業者（撚糸、染色、整経）の減少により、産地のサプライチェーンを維持できなくなることを危惧している。 アメリカの相互関税発動に伴う当産地への影響は少ないと思われる。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は▲55%、収益状況は▲35%、仕事量は▲42%と悪化し、今後の見通しもよくない。
家具製造	前年同月と比べ売上は10%増加し、続いていた受注減少は下げ止まりの兆しが窺えるが、注文のロット数は少なく、カスタマイズ品が増加しており煩雑さが増している。 IT化やDX化の推進が必要であるが、人材不足でプラットフォーム整備の人手が確保できないため、外部との連携など時間をかけて取り組む必要がある。
窯業・土石 (砂利)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲10%となった。工事量・骨材需要量が低調な上に、働き方改革による人件費の増加や物価高による経費の増加により収益が悪化している。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上は13%増加したが、収益状況は▲7%となり、一部の価格転嫁は実現しているが、それ以上に製造コストが上昇し収益状況の改善には至っていない。人的待遇改善や労働時間短縮に優先的に取り組んだため、設備改善や運搬経費の節減には着手できておらず、次年度もさらなる値上げ活動の必要性を感じている。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに改善している。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲20%となった。業界全体で景気の低迷が続いている中、アメリカの相互関税により消費の減少等が懸念され先行きが不透明な状況。
電気機器 (電気機械部品加工業)	先の仕事が確保できており、6～7月分の見積もり依頼が来ている。今後の状況次第では値段交渉よりも納期交渉が重要となる見込み。
電気機器 (電気機械部品加工業)	半導体関連の受注は前年同月比で80～90%減少、光学医療関係の受注も総じて減少し、売上・収益状況ともに前年同月比で▲30%となった。アメリカの関税アップの影響も懸念され、見通しはよくない。

宝飾 (貴金属)	金・地金価格の上昇により前年同月と比べ販売価格が10%上昇し、商品価格が安定しない状況は当面続くことが予想される。消費回復に向けて4月に開催するジュエリーフェアに期待している。
-------------	--

● 非製造業

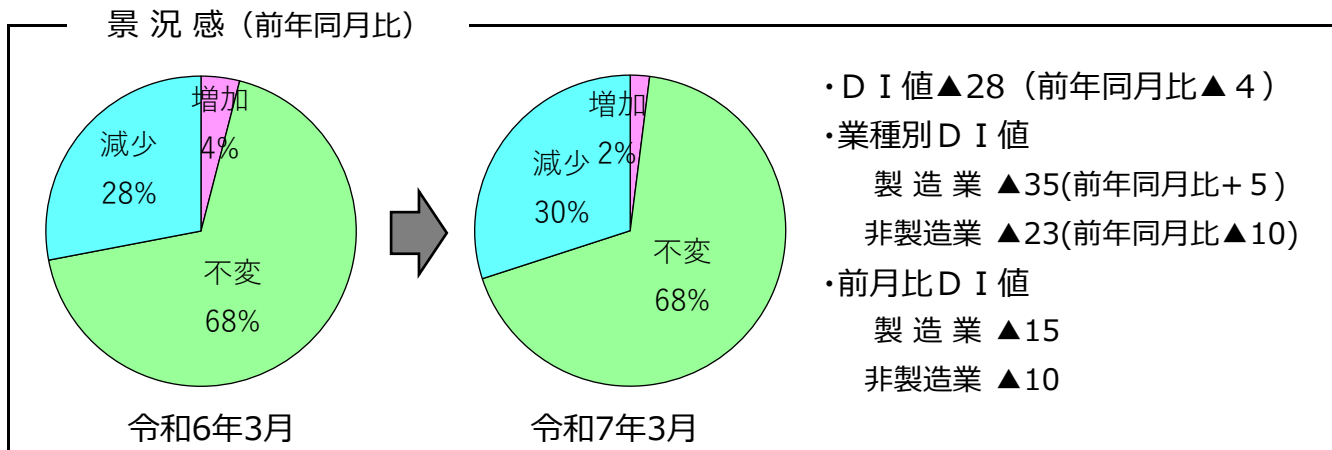
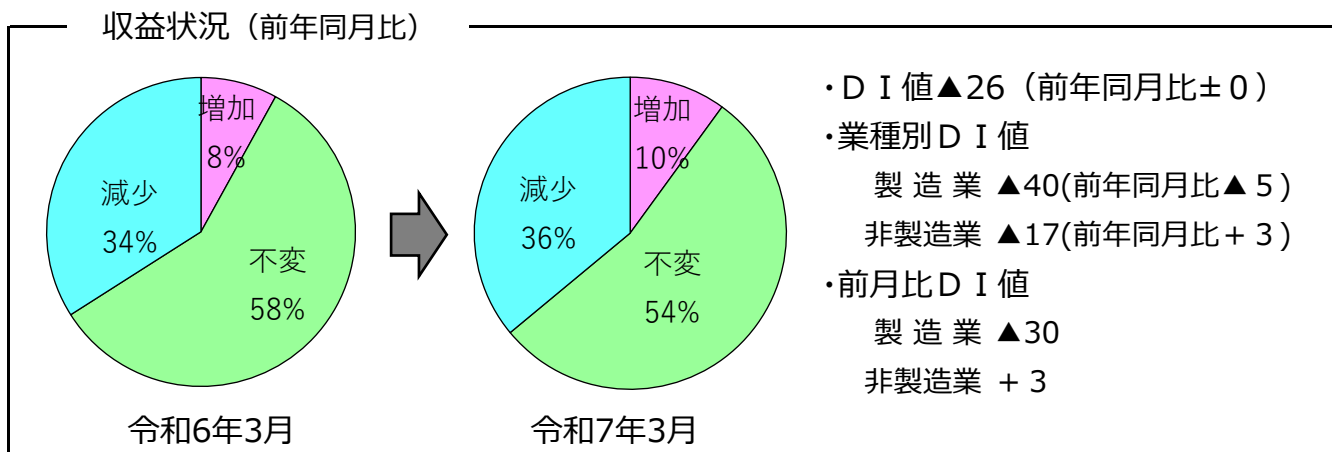
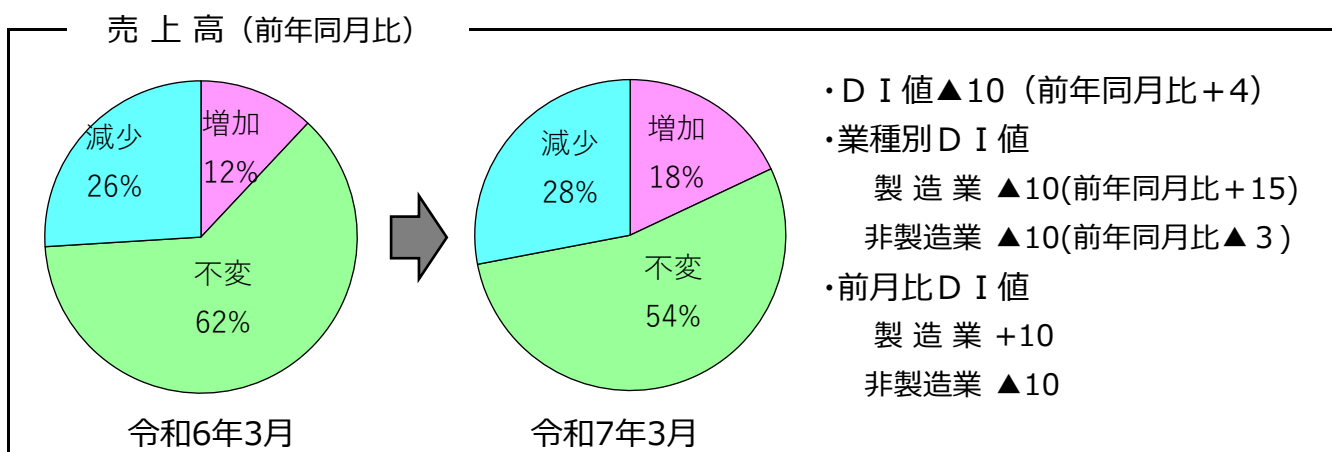
卸売 (ジュエリー)	金・地金価格の高騰が止まらず、過去最高値の¥16,300/gを超えたことから受注量の減少、製品原価の高騰が起こり、前年同月と比べ収益状況は▲88%と悪化した。今後も消費の伸びは鈍化すると推測される。また、金・地金は現金払いのため価格高騰により資金繰りにも影響が出ている。
小売 (青果)	前年同月と比べ売上は13%増加したが、収益状況は▲5%となった。天候不順による生育不足で葉物類は高値が続いていたが月後半で安値となった。果物は高値で推移した。
小売 (水産物)	令和6年度の組合員水産物取扱高は前年と比べ99.4%、共同購買事業収入は98.4%となり、組合員2社が脱退した。
小売 (電気機械器具小売業)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲3%となったが、年度末で一般家電の販売が上向きとなり、中でも設備商品が改善傾向であるため今後も力を入れていきたい。
商店街	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲84%となった。大月駅周辺に有料駐車場が乱立している影響で駐車場の売上は減少し、物価高騰により個店の売上・収益状況も悪化している。
宿泊業	気候が暖かくなりビジネス客に加えて観光客の動きも増加したこと、春休み中スポーツイベントがあり団体客の宿泊が増加したことから、施設の稼働が上がった。来月以降イベントが増えるため集客・稼働率アップに期待している。
宿泊業	前年同月と比べ売上は4%増加したが、米をはじめとした食材の値上がり分を宿泊料金（販売価格）に転嫁できていない。
美容業	3月は卒業式シーズンであるため組合員の各店舗で予約数は増加傾向であった。
産業廃棄物処理	前年度に比べて設備投資、従業員数が増加傾向であり、今後は廃棄物処理量の増加も見込まれる。
一般廃棄物処理	一般廃棄物広域処理センターのさらなる集約化によって運搬経路が大幅に延長されることから、災害発生時における廃棄物処理事業継続マニュアルの徹底が重要となるため、今後は市町村と協議の上、マニュアルを準備していく予定である。
警備業	交通誘導やイベント警備の価格交渉は概ね順調に進んでいるが、施設警備など長期で契約している案件が多く値上げが難しいケースもある。
自動車整備業	車検台数について、普通車15,282台（昨年同月比-110台） 軽自動車12,396台（昨年同月比+38台） ※集計の都合上、2月末数値
建設業 (総合)	3月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は21%、請負金額は10%それぞれ増加した。令和6年度累計では件数は▲1.7%、請負金額は▲1%と減少した。

<p>建設業 (型枠)</p>	<p>3月入り仕事の動きが鈍くなり売上は▲5%、仕事量は▲10%となった。 元々決まっていた工事が前工程の人材不足で月単位で延長されたり、官民工事共材料費や人件費の高騰により設計変更が行われ工期が延長・減額を要求されるなど、賃金アップを要求している国との矛盾がある。 このような状況から事業承継問題を機に廃業を考えている会社もある。</p>
<p>建設業 (鉄構)</p>	<p>新規物件・建て替え物件が存在しても、施主の予算額と元請会社の見積額に乖離があり、契約が成立しないケースが多くある。また、需要はあっても工期が延期される傾向にある。</p>
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>高齢化や後継者不在により組合員の減少が続いている。業界全体の盛り上げやさらなる魅力づくりが必要となる。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>後継者不足・人材不足による脱退が増え、組合員の減少が続いている。</p>
<p>運輸 (バス)</p>	<p>退職者が増加している。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>年度末であるが、例年ほどの忙しさはなく通常通りの運行状況であった。物価高による消費者の買い控えで当面の間は荷動きが鈍い状況が続く見込み。時間外労働の上限規制開始から一年が経過し、運行の見直しやドライバーの給与を見直す会社もあるが、運賃への転嫁が十分ではない。</p>

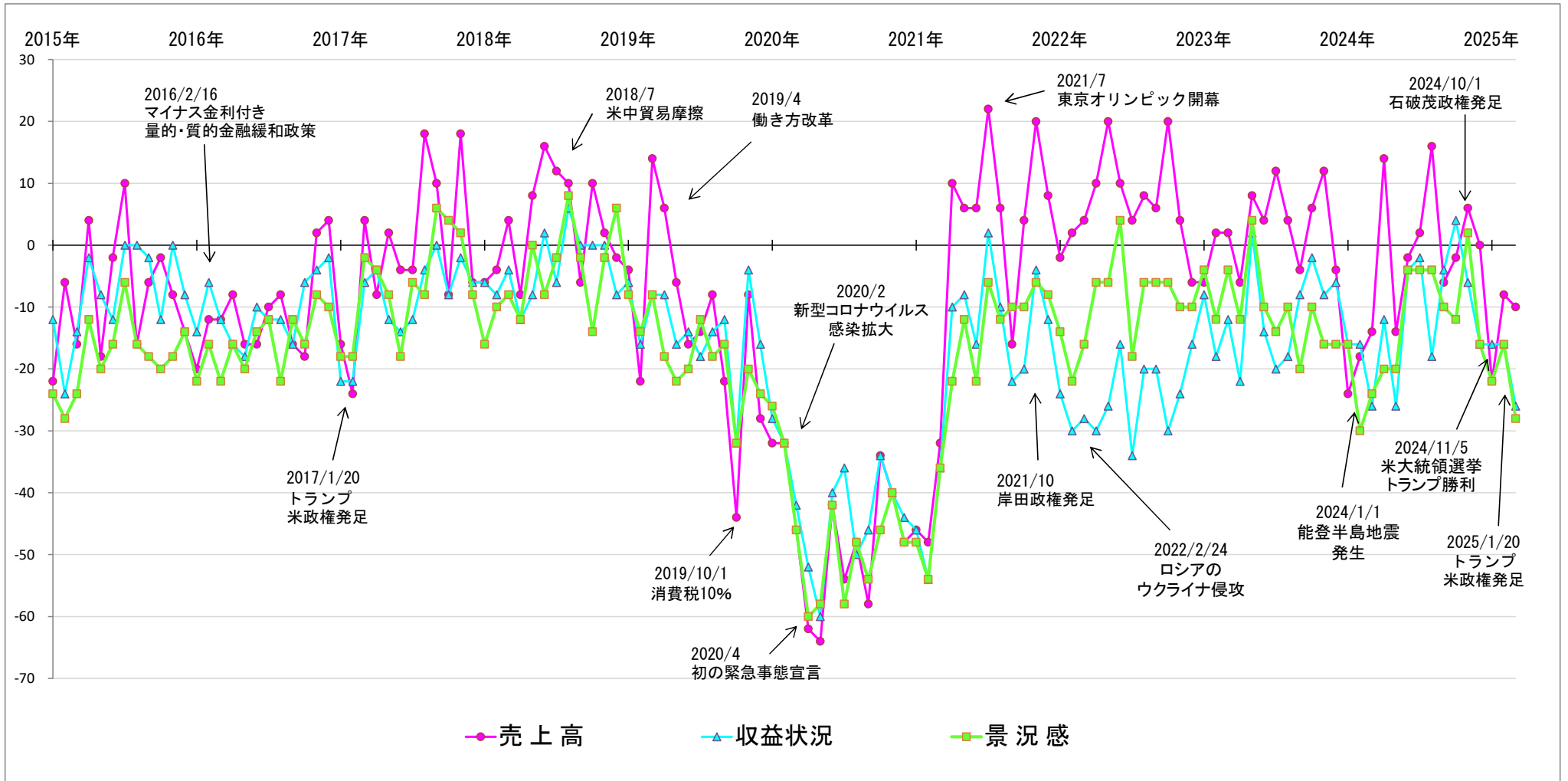
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2024年3月	2025年2月	2025年3月	2024年3月	2025年2月	2025年3月	2024年3月	2025年2月	2025年3月
売上高	▲ 25	▲ 20	▲ 10	▲ 7	0	▲ 10	▲ 14	▲ 8	▲ 10
収益状況	▲ 35	▲ 10	▲ 40	▲ 20	▲ 20	▲ 17	▲ 26	▲ 16	▲ 26
景況感	▲ 40	▲ 20	▲ 35	▲ 13	▲ 13	▲ 23	▲ 24	▲ 16	▲ 28

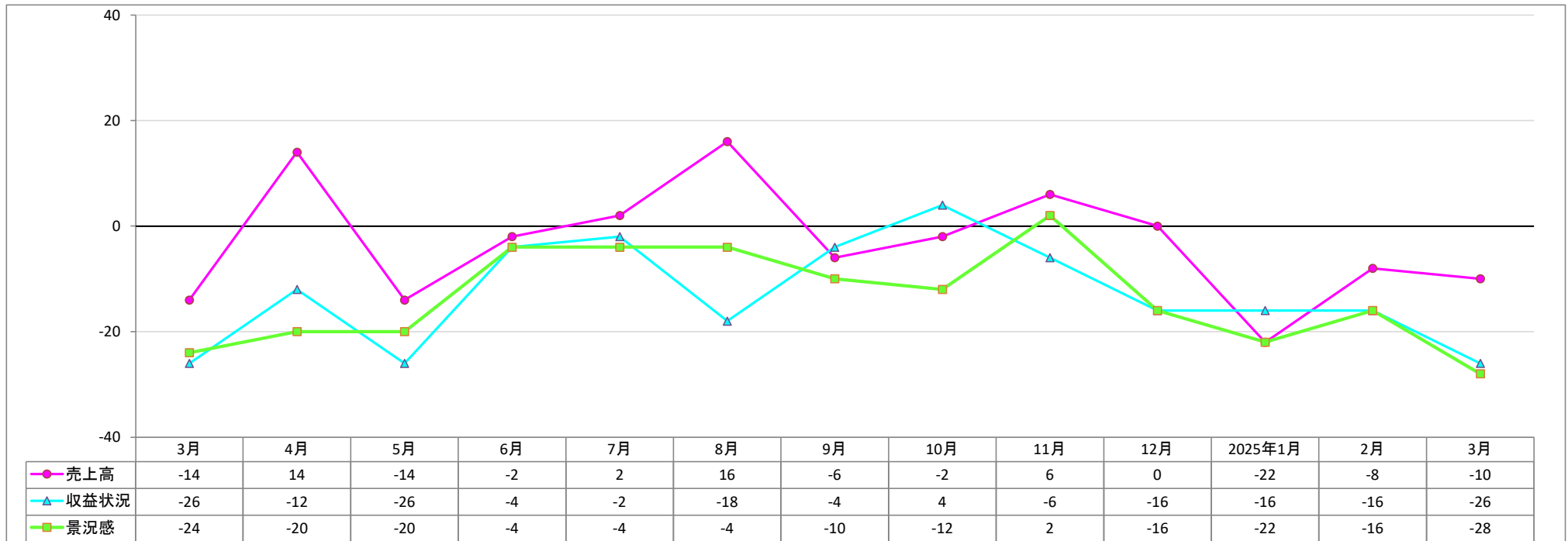
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



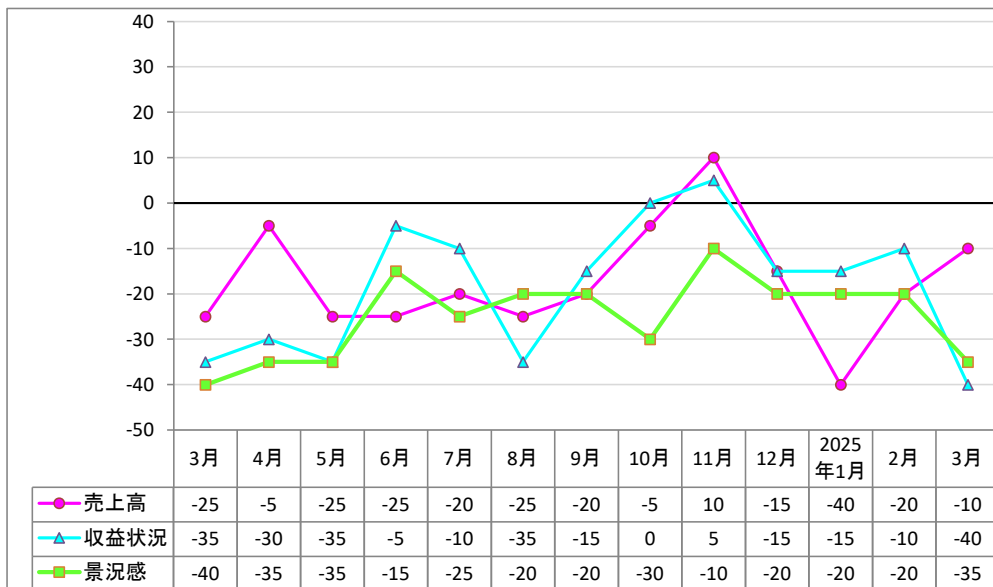
D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月~2025年3月



D.I値の推移②(過去1年間) 2024年3月～2025年3月



【製造業】



【非製造業】

